

実践的な道徳教育 教諭が在り方模索

研究会に190人

倫理・道徳の研究を推進する公益財団法人モラロジー研究所(千葉県)の第54回教育者研究会は2日、福井市の福井放送であった。嶺北の小中学校教諭ら約190人が、子どもたちの豊かな心を育む実践的な道徳教育の在り方を模索した。写真。

「命を見つめる」を4年生の道徳のテーマにした福井市松本小の取り組みを愛田久予教諭が発表。1971年に越前市白山地区で保護された国の特別天然記念物コウノトリ「武生(コウちゃん)」を地元の小学生が一生懸命に世話した物語なども題材にしたとし、



「命」に正面から向き合う気持ちを高めさせることができた」と報告した。

「学校教育全体を通して行う道徳教育の実践と課題」と題した坂井市春江小の山田俊行教諭の発表や有識者による講演もあった。

研究会は10日、小浜市の県立若狭図書館学習センターでも嶺南の教諭を対象に開かれる。

(伊豆倉知)